

平成25年度当初予算 選択・集中プログラム 取組概要

南部地域活性化プログラム

(主担当部局：地域連携部)

プログラムの目標

南部地域において、あらゆる世代の人びとが生まれ育った地域に住み続けたいという思いがかなうように、若者の働く場が確保され、安心して住み続けることのできる地域社会が形成されています。

めざす姿の実現に向けて、4年後には、市町と連携して若者の雇用の確保や、定住の促進などの取組を進めるための仕組みが構築されています。

プログラムの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度	27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
若者の定住率	—	—	—	62.4%
	62.4%	—	—	—

目標項目の説明

【目標項目】 南部地域の市町における25歳～34歳人口を20年前の5歳～14歳人口で除した値

進捗状況（現状と課題）

- 南部地域活性化基金（以下「基金」という。）を活用した事業化や集落支援モデル構築事業の協議等を行うため、5月に「南部地域活性化推進協議会（以下「協議会」という。）」を13市町、有識者の参画を得て設置し、市町との連携体制を構築しました。協議会では、基金を活用した具体的な取組等の検討を進める場として、4つの部会（集落支援・空き家活用、移住・交流、観光・交流、起業支援）を設置し、現在、市町と協議を重ねているところです。
- 協議会において、8月に基金を活用した事業計画案2件（①「紀南農業・農村担い手対策事業（熊野市、御浜町、紀宝町）」、②「漁業の担い手育成事業（尾鷲市、志摩市）」）を認定するとともに、11月には、平成25年度における事業計画案（幹線道路を活用した誘客促進事業、企業立地セミナー開催事業、地域資源を活用した雇用創出事業等）の協議・認定を行いました。
- 南部地域では、働く場の確保が大きな課題であることから、地域資源を活用した取組を進める事業者と連携して、雇用の創出を図っています。
- 南部地域への移住を促進するため、三大都市圏における「移住フェア」を開催することとし、市町と取組を進めています。
- 南部地域では、集落機能が弱くなっている地域が増えていることから、モデル地域を選定し、集落機能を維持するための取組を市町・大学と連携して進めています。平成24年度は尾鷲市早田および近隣集落と志摩市渡鹿野島において取組を進めるとともに、南伊勢町、紀北町、御浜町において、平成25年度に取り組むモデル地域の選定（各町1地域）を進めています。
- 複数市町の連携による若者の働く場の確保や定住の促進に資する事業について、基金をさらに活用して具体化を図る必要があります。

- ・ 東紀州地域の観光や産業の振興による活性化を図るため、東紀州観光まちづくり公社において、観光振興、産業振興およびまちづくりの取組を進めています。また、熊野古道センターにおいて熊野古道を中心とする企画展を開催するとともに、紀南中核的交流施設において、熊野里人市の開催や3周年記念宿泊プランの販売など集客交流に取り組んでいます。今後、さらなる集客促進を図るため、関係機関との連携を強化し、より効果的に事業に取り組んでいく必要があります。
- ・ 紀伊半島大水害からの復興を進めるため、7月に「第22回世界少年野球三重・奈良・和歌山大会」を開催するとともに、9月には、「紀伊半島大水害復興イベント～行ってみよら♪東紀州元気祭～」を開催しました。
- ・ 東紀州地域において、木質バイオマスを安定的に供給できる体制の構築に向け、新たに取り組み始めた「尾鷲木材市場協同組合」および「三重くまの森林組合」に対して、林地残材の搬出支援を行っています。今後も、安定供給体制の構築に向けた取組を進める必要があります。
- ・ 平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を迎えるにあたり、東紀州地域5市町とともに「世界遺産登録10周年事業企画委員会」を7月に立ち上げ、今後の事業実施に向けた検討・準備を進めており、早急に平成25年度以降の計画を策定する必要があります。
- ・ 知事を本部長とする部局横断組織「南部地域活性化推進本部」を設置し、南部地域活性化に向けた取組について情報を共有するとともに、基金事業の具体化に向け関係部局と連携を図っています。

平成25年度の取組方向

協議会の各部会等を通じ、市町や大学との連携を深め、共通課題の解決に向けた取組や基金を活用した事業の具体化を図り、南部地域における若者の働く場の確保や定住を促進する取組等を、関係市町等とともに進めます。

また、地域外からの移住・定住に向けた情報発信事業などを展開するとともに、市町・大学と連携し、集落機能を維持するための取組を進めます。

東紀州地域の活性化については、引き続き東紀州観光まちづくり公社、熊野古道センター、紀南中核的交流施設において、観光・産業振興等の取組を進めていきます。

また、木質バイオマスを安定的に供給できる体制を構築するため、「尾鷲木材市場協同組合」および「三重くまの森林組合」に対して、林地残材の搬出支援を引き続き行っていきます。

加えて、平成25年度は、式年遷宮や高速道路の概成に加え、世界遺産登録10周年の前年度にあたることから、10周年のプレイベントやキャンペーンの実施など次年度の誘客に向けた情報発信に取り組むとともに、世界遺産登録10周年事業の準備を着実に進めていきます。

なお、南部地域の市町が抱える課題等について、関係部局と常に情報を共有し、南部地域の活性化に向けた取組を、関係部局の施策や基金を有効に活用しながら実施します。

主な事業

<実践取組1>若者の働く場の確保、定住を進めます！

地域連携部

- (新) 幹線道路を活用した誘客促進事業

(第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費)

当初予算額：(24) 千円 → (25) 12,903千円

事業概要：複数市町が連携して取り組む幹線道路(サニーロード、R42号)を活用した誘客促進の取組について、南部地域活性化基金を活用して支援します。

●（新）企業立地セミナー開催事業

（第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費）

当初予算額：(24) — 千円 → (25) 2, 275千円

事業概要：南部地域における企業誘致を促進するため、複数市町が連携して取り組む、都市部での企業立地セミナーについて、南部地域活性化基金を活用して支援します。

●南部地域活性化推進事業（総合調整事業）

（第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費）

当初予算額：(24) 9, 000千円 → (25) 7, 354千円

事業概要：南部地域の働く場の確保や定住の促進に向け、地域住民の主体的な取組や複数の市町が連携した取組を支援するとともに、三大都市圏において「移住フェア」を開催するなど、移住・定住促進に向けた情報発信等を行います。

●集落支援モデルの構築事業

（第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費）

当初予算額：(24) 5, 000千円 → (25) 5, 438千円

事業概要：集落機能を維持するため、市町・大学と連携して、モデル地域において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援します。

●（新）地域資源を活用した雇用創出事業

（第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費）

当初予算額：(24) — 千円 → (25) 5, 250千円

事業概要：地域資源を活用して新しい事業展開や事業拡大を行う事業者に対し、南部地域活性化基金を活用して、新たな雇用の創出を支援します。

<実践取組2>東紀州地域の紀伊半島大水害からの復興を進めます！

地域連携部

●東紀州観光まちづくり推進事業

（第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費）

当初予算額：(24) 20, 078千円 → (25) 20, 078千円

事業概要：東紀州観光まちづくり公社において、観光商品づくりやエージェントセールスなどにより集客交流を図ります。また、物産展のアテンド等を通じた販路開拓や地域の人びとによる自主的な地域づくりを支援します。

●（新）熊野古道世界遺産登録10周年事業

（第2款 総務費 第6項 地域振興費 1 地域振興費）

当初予算額：(24) — 千円 → (25) 16, 000千円

事業概要：地域や関係機関と連携して、熊野古道世界遺産登録10周年のプレイベントやキャンペーンの実施など次年度の誘客に向けた情報発信に取り組むとともに、10周年事業の準備を行います。

農林水産部

●新たな木質バイオマス供給拠点づくり事業〔再掲〕

（第6款 農林水産業費 第4項 林業費 2 林業振興指導費）

当初予算額：(24) 7,500千円 → (25) 6,052千円

事業概要：木質バイオマスを安定的に供給できる体制を構築するため、高性能林業機械のリース費用を支援するとともに、東紀州から松阪までの輸送経費相当額の支援を行います。
(チップ原料供給機械等支援、チップ流通支援 1,488 t)

<実践取組3>東紀州地域の紀伊半島大水害からの復興を進めます！

南部地域の活性化に向けた課題は幅広い分野にかかわることから、関係市町、県庁各部局と連携しながら、効果的・効率的な事業展開を進めます。